

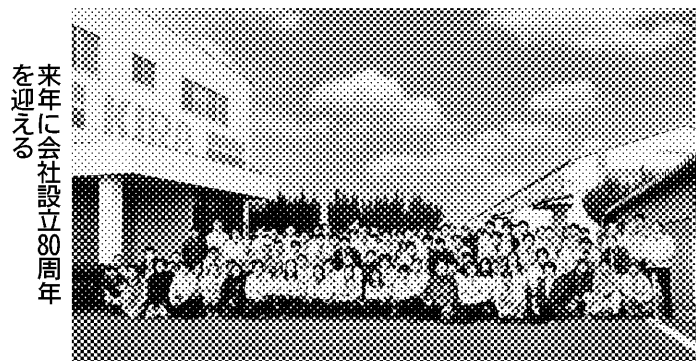
激動の経営

竹長彦は「次代につながる節目にしたい」と一層の飛躍を誓う。デジタル化対応など次世代のモノづくりを見据えた新しい技術、サービスの開発にアクセルを踏み込む。

デジタル化対応
自動車関連部品の切削加工自動化ラインの提案を強みとするキラ・コーポレーション（愛知県西尾市）は、2024年に設立80周年を迎える。社長の大

キラ・コーポレーション ④

次代につなぐ節目



来年に会社設立80周年を迎える

ワークサービスだ。異常発生時の迅速な状況確認、操作指示のほか、消耗品交換など予

CO2削減

環境負荷低減を図る

モノづくりも推進する。岩手大学との共同研究で切削油を使わず、水を用いた切削加工の実用化に取り組んでいる。切削油の処分に伴う二酸化炭素（CO2）排出削減への貢献を目標としている。新しい技術、サービスが芽吹いてき

「誠実であれ」の言葉今も

たことを頼もしく思うとともに、大竹はこれからの会社の成長を担う社員一人ひとりの成長に期待をかける。大竹の思いは会社の行動指針に表れている。

人材の成長を実感する機会を増えている。早くから海外で経験を積んだり、語学に堪能な社員が活躍する。総務部長として社員と向き合う榎本は「真面目で、素直な人が多い」と評価する。そこに誠実という言葉を加えるのは営業部長の森下直樹。入社間もなく、先輩に言われた「誠実であれ」という言葉を今も覚えてい

代でボール盤を製造し、第3世代で数値制御（NC）切削加工機に軸足を置き、成長を続ける。技術や主力製品は変わっても、顧客に対して誠実に向き合い、選ばれ続けることを真価としてきた。

22年の社長就任以来、大竹は「会社は社長の器以上に大きくなれない」と肝に命じ、経営に取り組み。言うべきことは言うが、聞くべきところは耳を傾ける。気負わず、今日も顧客と社員に向き合う。（敬称略）

（この項おわり。名古屋・鈴木俊彦が担当しました）

業務を滞りなく進め、物事が好転するころにチャンスが生まれるという考え方だ。

選ばれ続ける

事業の歴史を振り返ると、船用エンジン製造での創業を第1世代とするならば、第2世

代でボール盤を製造し、第3世代で数値制御（NC）切削加工機に軸足を置き、成長を続ける。技術や主力製品は変わっても、顧客に対して誠実に向き合い、選ばれ続けることを真価としてきた。

22年の社長就任以来、大竹は「会社は社長の器以上に大きくなれない」と肝に命じ、経営に取り組み。言うべきことは言うが、聞くべきところは耳を傾ける。気負わず、今日も顧客と社員に向き合う。（敬称略）

（この項おわり。名古屋・鈴木俊彦が担当しました）